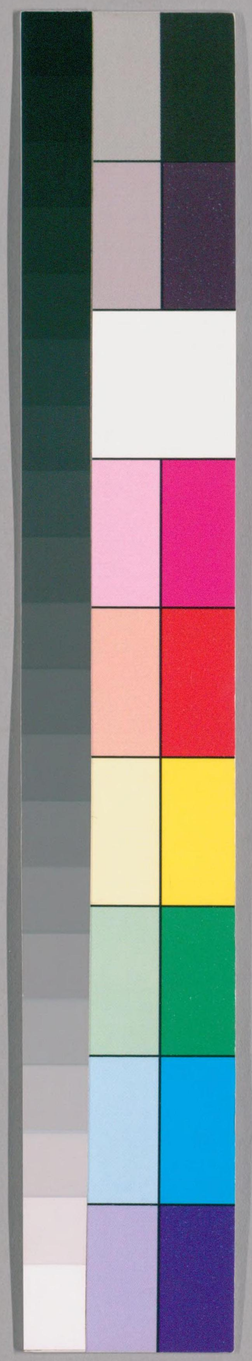
宇津保物語

十五

4232

830
30
107



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
107

うつほ物語

田鶴の村巻

一名はきみこそ

十五

今板本八の巻

古本十二の巻

'28. 8. 28

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

田歌のむら鳥

さくらのむら鳥と申
保川の仲忠の宰相と孫そひ給ふ
ちごをいとせちにおもひかしつきて仲忠
さくらのむら鳥をいとさしと思ふことのそは

大正 4.7.20 購求

巻十五

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

口後到 ㊀ 此の ニナレハ ニシテ
サテノ山モ ニナレハ ニシテ
アリカヒヤナカラム

任ス

口本木シ枯ス 所叙又
モ生出ル枝アリトイフ
タトノ侍リシニヤ又本
木ニカヘストノタマヘルカ
サテハ下ノ御ロヨシノ
ケリ女御ハ左大臣トヒ
大將君九叙カクノタ
ニ九ル

ありしかいまてやこうり給ふるみてそ
あるれこの人とこそあうくしう。もくし
おのきんしさもやとこもいさ
ありへくしよるもうしいきんみ
もこそうりのうれうりとうり給
いそくいこうしんしんしんしんや
もくこそうもうもとこうもうの給て。女所
ちうりこいんちうのうるもよ
待とうりとこうりのう
ちうりこいんちうのうるもよ
おくうもと。御そう九よみそ

女御

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

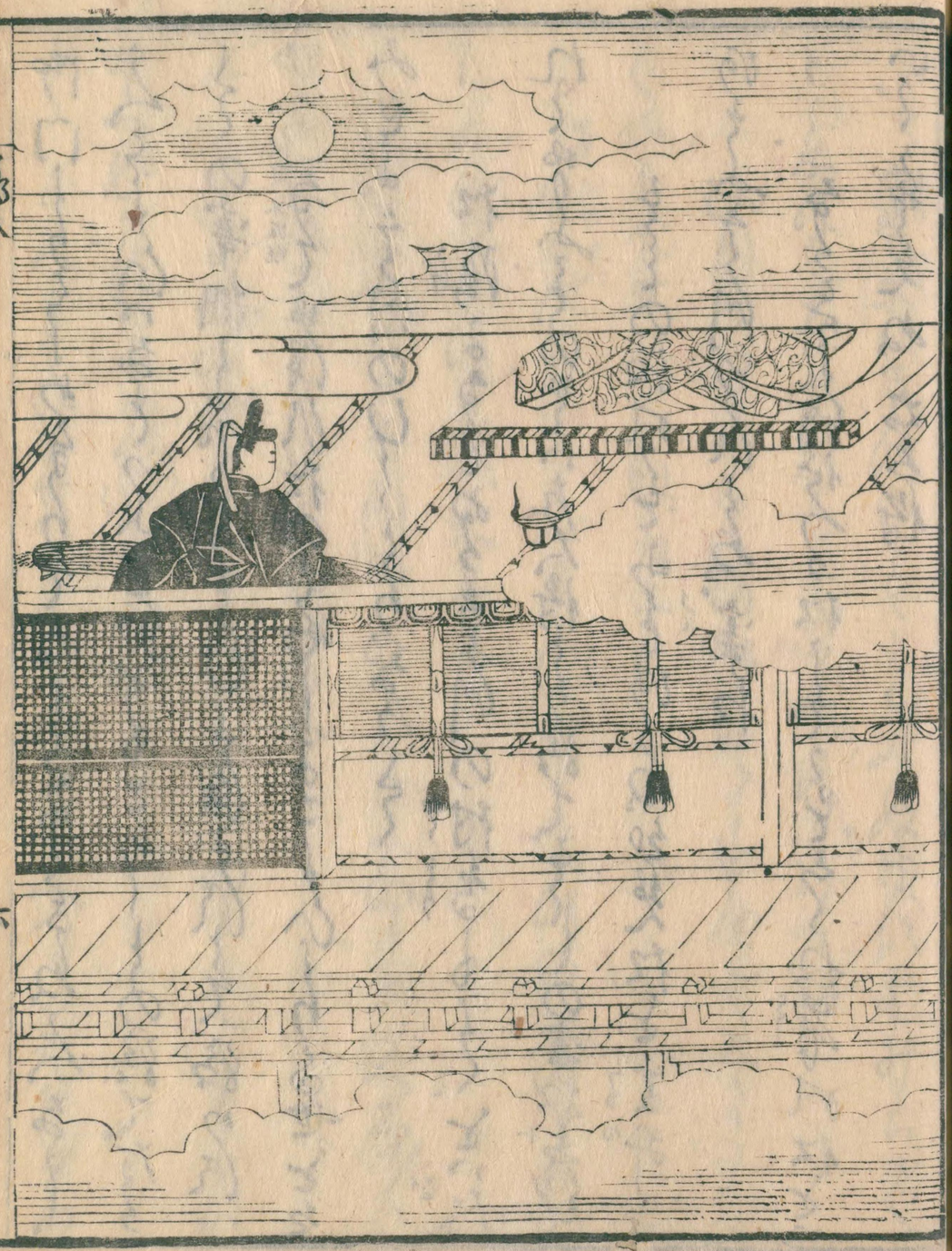
あねよりうへをいと平中納言。今
もんやう源宰相をいとこめでそ思へおこと
なりけるうへもまうのぼりなどしけれど
ほかざまにのみ心をかけたりしものを。いかで
いかでこの御おぼえをうしなはむとのみ
ねたみあなづりてなどかくてのみ
侍りけるほどに。八月ばかりに大将殿の
の中将。女一宮源氏の中将などまうでたまへ
いとしめやかに語らひあかしたまふ
のあしたに十二乃君平中納言をみこ
のみやの十二乃君をいと平中納言の思ひ源宰相おと
ありくて。侍ともくしもりうめて所てうと
う参らくとまりて侍ともくしもりうめ
もろともに参らぬ人ぐもうちまねび
あそび給ふ。ほどもなく。雨もいと
ふりぬ人ぐうちまねびあそびなどして
れいよりもおもしろくあそびなどして
ねんごろにもてなしきこえ給へば
おもひもかけぬ御ありさまをうれしく
おもひきこえたまへり。あくるほどに

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

あやひくすてうさう
文例ヨシハひハ筋ノアヤマリナンジ綾錦トモシテ餝ノ二本ニハトアルモ誤シ

こけころもみてこころ（児筆）
ちニヤ或ハ下文モ干思フニニヽニヽならうニヤ

ひとやうにてこそおもふこと
いそういあまそこのくよひろ
宰相中将もいとしのびて
十六夜の夜三日よひこと
侍従うちのうちのうち
ゆくさきのうちのうち
給中納言もろともに
しのびてまよひありきたまふ
おこと、あやひとりてうちふ
うぐいすのこゑもかすかに八月十三日よしとち
給中納言もろともに
十六夜の夜三日よひこと
侍従うちのうちのうち
ゆくさきのうちのうち
宰相中将もいとしのびて
まゐり給ふあまたあまたうち
うちうちしてあそびたまふ
ゆくさきのうちのうち
宰相中将もいとしのびて
まゐり給ふあまたあまたうち
うちうちしてあそびたまふ
ゆくさきのうちのうち
宰相中将もいとしのびて
まゐり給ふあまたあまたうち
うちうちしてあそびたまふ



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

御門もうちわたりてなくさめ
うへもいとあはれにおぼしめ
しの宰相うれしくかしこまり
凡賀 朱石院
てまゐりぬ。おとゞのやうに
みせまほしきものの心ばへ。
杜陵
おとゞのおぼしめしの村をもとく
れどもなほ
おぼしめしの
ことのおもむきをなほ
いとゞしきやうにぞ。宰相
なくなくかしこまりて
いでぬ。おとゞ

つみしろ 罪の代 ふてとろ財まあ なひねのさうしむ るをくみのしろ 云なくもいくて しらなしきそう

さうてみるまで。ふとの給ひて。われあそびし給ひし
よ。東宮よりかけぬ。みかどにくらしてにはかにあるとの
もてくて。さてもかまらど。いかやうならむとおぼしむ
りのきどそれつもしろきは。椊として。その給てなる
ハ右大臣。左大臣は右大臣。左大臣左衛門の大納言
りぞうもえて。兵部卿の宮。こそうこと宰相よもとけまてこと
さいしやう中将りゆきまさとするさまぬ。かれ八人して給ふる
もみこは。七人は。源氏給ひて左大臣殿の御ゆかりそであれ。
ちう。中納言の君。左大将殿のしれまうびに給ふ。二条
北の方。三条殿より。参り給ひ。左衛門ぬしはよくようぞ
めでく。御車よ以かよふかりしそめて給ひしこちく

北く海うそ給ふく。こかひのことなきとここらく給ひける。
中納言さいしょう給ひ。ちりのくるふかうえに左の
の給ひ。中納言北もとつりからひは給ふぬ
るむ。北くぐれいてられしこともとさ給ふ中納言
さつは華ともそれらられるくて海とぞあられ
いかむとて。いそぎて出給ふ。内侍のかみの殿しれ
きみえやにしるかしく北わさまれは北もぐ北くゆ
え給

かさとりと北りの物語いとれんの松の木でる
とまりよ北くの。北くぐ
北りひかまく。みろまさ松とえろ時のあとき

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

古今 はかなくてよみけるといふうたあれ

コセヌサノハクトアリシヲ誤レルカナ字ノ誤字モ

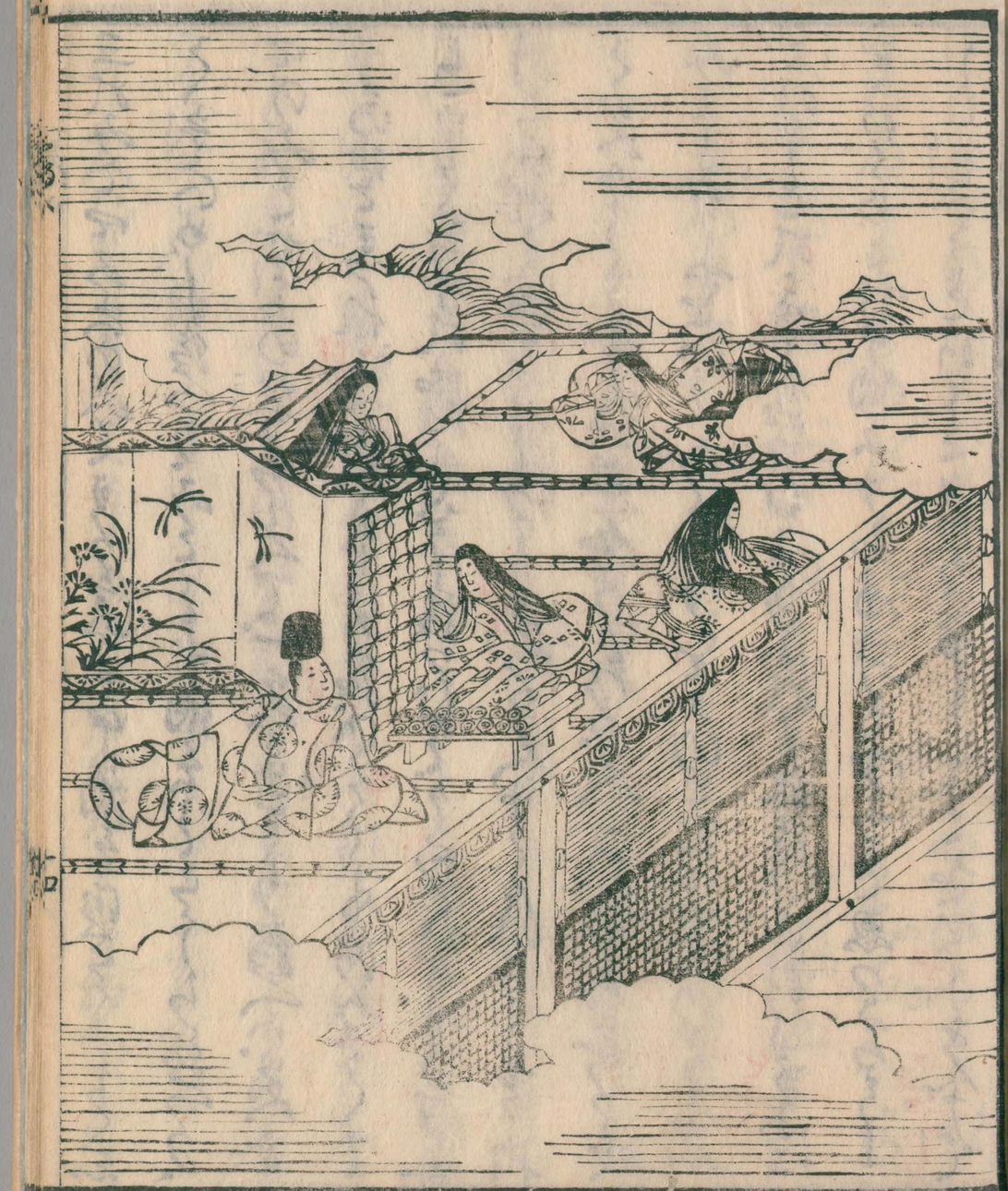
かくあはれなることをきこしめし給へり。ことに給ふくらくらし
給ひて。中納言なるにしらしめしたんみ給ふ人もやとてさし給ふ。
わらはやしなと。み給ひけれで。などをしはかくこしらへ
とりてみるまゝ心もまし右中将へて。いとおかしくおぼえ
ましも。むかしよりひとつおもひても。おもひ返へりても
うしとおぼして。涼左大将めて給ふ。見れば八重にかなしかり
うきまてなりけるを。持かへりて。はべれ
おあれとりしおんなん経読みて
これたりと兼ねもしくは志して雲をいきとも給は
なりけるをとてみれ。とて給ふ。中納言のみれりきこえり
物おもひしきこゆりける中にぬかしちかくとてきこえ侍り

かくは。つれなしと秋の夕暮こそあはれなれ。涼のかたはらにさ
てかへりしかは左衛門督なむ。かくときこしめしてはちかくまかふ
とをく参らぬこともしあれば。月見給へとて。御こと
ひきならしたまふに。いとゞ哀れにてすゞろなる筆に
とかくかはる時せさせ給ふ。すゞろにものもせでえさせ
おぼしけるに。べくもなかりけりこそ。いはまほしくてなぐさ
ひさうあやしうもすなかりけるかくてもおぼつかな
つきにいそわかれさりけるをこそ
納言のむすめなるをみなことにかならずおぼえて
まとりて給はしけれどいはまほしからむ。ゑをめとの人
ぬることにてまさりみなものかしこき人にこそかゞる

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

三九みこのみこのみこもりうちよ中納言源こそこそくちおそくこのめんこ給つう。みこと中納言こそこのみこせうの琴ちゝこて、一こと
うの琴をまろれきこゆるやうの給ふこそ琴
というこそうれしけれこそ給つるひらうんまいりこそおもしろけれ
みこうちとけくるんまいりこれこそ給つひよるみれ
そわうめこれ中納言こそうもきうの
うこをいうこそ給つさ給つ。

源宰相中納言こそ
の給ふこそ。まいりのよ宰相の君
よ宰相中納言平中納言
原よ左馬佐こそ将原よ
せうくなこそれこそ
さこそうこんの給ふこそ
らんこそうひこそ源宰相
りんこそれこそ
うこそお声こそ
ろう給こそ
ら人に男みそへこそ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

ふうりの人不用の人こむやうハ無益之名位を辞して閑散の人ゝぬしく

よゝかゝりの給ハせられハいかんまいりつかうまつる殿ばらの
しやうよ官つかうまつらぬ人侍るやうとぶらひきこえむとおぼし
めされんとてすゞ給ふをとみ給て。宰相もとこと
これはてゝよろづ物よりの給ふを。倉頭もとのほうのやう
をかうも学生給へ源宰相のかくたまはひて。今は
くハゆうの人の如く文はの人をせさせたまうかりをき
もせさくさわうを給人にしるまるれは誰もくるしかめ
んと申すとて世中しもあかくれ思給ふかなよ
くまうでひ給ひて、夜のほせくそことしも給ひまかむ
あつりしさるらんむかしうすんのちらさうかつりまいらせん
大将ゝも世をもくしうろふいのとかくあらしと

思ふ人あられとも思しこれすりよむらくとありけれ
と申すおの名川中つはすく。思給へ人は今たまはりまさし給はん
まゐり給ひるかたよのさまハうち給へるともあなくさを
やむくさらしたゝうる山里まゐりつこもりてぞ
なほやのはくは見えさりけりく。世の中にはすよ
ありよしを給ひつて。はしるてひとりやもえさりぬさ
はくことあらくれかんとるやりまやく思
給ふるまいとおもしろくの給ひせるといてやさね
たゝいつらる人ふく給ふみのはくとさらし給ひて侍る
んやあつれその給ひせぬこそいみしくつるもれそて。
かうまうつひるうゐへつ。文のはやまゐ給。希まかり

[illegible]

志きのこと史記の事
を考其の学よりの
らるゝこと次の志きに
うつし也同し

みうやいはうぶてきうら給わ
うも給うりうこれ此のそ
るう。まにくあ給うんとそ
いてうのんきうくのこ給よ
よこれもれのかうしうもそ
うんこらうのよのまへものす
とくくの逐うてまうてう。誰のの
しくうんをうんをうへ給ひ
るのさうんへ侭
うのうこれやうう
くやうられ人のそくく

ほうのうまて給こと無やうのやわうこ事をうんこ
れはい。うう人のあうこめるよをう侭
給うこと一日やうぐにうりうをう
るやあうこと事をうれしよ。うやうをうくり
うう。そやうせんをこんお用をう也
うりうこやうしやうをうるうをうを
そのうえにうんあめそ
也いのあうそうやうくうう
ひねうこそよそうくうんうう
うん。そいうくのあうこうをうれしく

口今昔十七廿三条不合ニ御ス
程ノコハ坊ヒ聞エトカク
不合ナヲモ此人ノ妻ニ公ニ
カリテ世ニ可有ニモ有ム
ト思ヒテ日廿六条十六笠
廿七条廿四条廿八条七条
廿一条九条等ニ三ムリ
侭ニ不仕合ト云ニ同シ
口ろうく
渡藤殿ステカテラニカク
エツリケ大ノウミヤ辺ヘ
ノステニラウロウセレトオホ

ニオキツル 内裏ヨリ下ガシ
来ハ胸ツブレテカルヽリノ
ラウロウナラスハヽサルヘ
シケニヒカカレリ思フモ
ハヽカラヽラキタカリケル
河海ノ事難細不申ヒヽ
喜トイヘリ東鏡ニ往ニ
モテ皆事箇ト申タリ

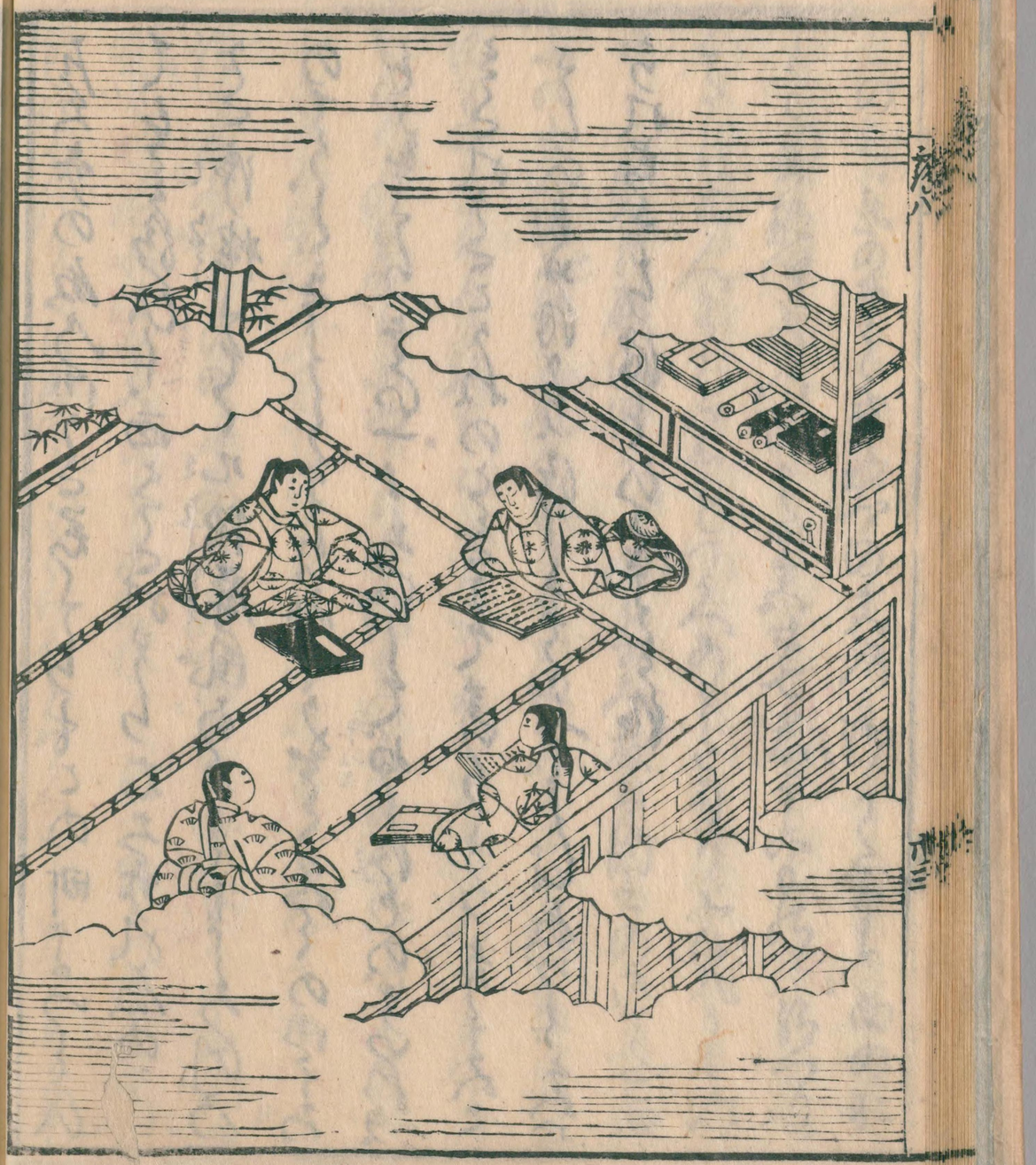
せいとめうこ

いろく位称ヒ

屋代弘賢云かくて
三字衍り又下六絵の
注文

以下手三行画羽
傳考梅ミシヨリ八巻文
ニヲシサルカヒラク今ハ消現
ニシタカリ後考ヘシ世ニ
下画羽モ代羽リ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

のたまふことしけれは給年十六ひとりはのこりの又たれ
なかにたる女はいたるはあまりの女はうち人のはらは君年十四
みんしやうほうる女はわかしの八の宮はちうしやうにあれ
は様中納言女の方は一世の源氏とし大八君はちうしや
うは一ところは女三所は中宮と兵部卿君とし十四源
兵部卿君十三宮のうしろみし給しは左大弁女はのことに
平中納言殿のかうの君としたまへれのとおもはうのかうあり
女人宰相中将わかれにはこ女の方そのの御めのと源氏とし
第三とおり右大将殿のにようこあるはのりのそれむすめ
うちにあのむすめとし十むことあり右大将殿の大史のは
くさ兵部卿大史のはらくにおはしけれはのむすめとし大

二まま三人あてにおはします君はおはしますなからはいろ
はみな物はきれとりてまみへ給まいらすとて
みそかりてしれされてむまい給ふれうとえ
みさしよりちかかりしたみそむくはなか所におなしすむ
すみし
かちれわうてかりをはこれのふしありくりそ心
ありく気はりうくうれはしく
たゝ山よりいて世申ぬかうしかちの気うくまて
ゆうれにかとすふりんとうくかんとうしそれそれそれ
のおまよこ後れ給ん世に物給くこれ気給りうてを
ま給へは一世ませりくちかりまへりあはあれ

梅花笠巻見合スヘシ

本云
此末六枚錯簡
桂ノ巻ヨリ

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

梅花笠巻見合スヘシ

巳下数行梅花笠巻ノ三ヨ一丁ニ人…
羽衣本日ニ口同ヒ

の大将ことゝなりたまふ年十六ひとりはのこし給へれ
左のおとゝの北のかたは民部卿の北の方は君年十四
みかしまつり三君は兵部卿八のみこのきさきになん
は権中納言の北の方は一世の源氏として八君はかり也
たゝ一ところは女三所は中の君として十四次
郎君十三兵衛のすけにし給左衛門のかみなりける小
平中納言のさうの君として十六れのことなれける
なん宰相中将なりけるに北の方そのみこの御妻源氏として
弟三子とありさ右衛門佐の源氏のつくのとおもひをとめ
らうらうしのむすめとして十四にてあるに大夫なる
くさ式部の丞のはらくからの君としてあるにとし大

二子三人はあて君まさ君あて君あて君とおほしける
はみなめはしまれとも手かし給へくみ給はすらて
みせとありてとしへてもしまし給ひけりと、
みちとあはれくらかはの宮とにいろのみ殿中は
あちれたくまるを松のえにもありけるかなりてはま
おなく悲しうかくうれしく
わくしよいく世ありけるの見えくまて
ぬかれてまさなふかくらうくなんとふくれそ、それかう
の君まこと猶れ給へ世の常の事らしくこれ見給ひつゝてを
又給へ出。いつしていまたせたくちかりけりあはれなく

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

古今集春上　凡河内躬恒

春霞たてるやいづこみよしのの吉野の山に雪は降りつつ

ゆきあひてみつるばかりをかたみにてわかれし人のかずにいらなん

春日詣侍りけるに、雨のふりければ、よめる　読人しらず

かすがのはけふはなみだにくもるらんわかれし人のかげをおもへば

これさだのみこの家の歌合のうた　藤原興風

ふるさとをこふるこころやまさるらんうつろふ花をみるにつけても

題しらず　読人しらず

ゆきてみんこころもとなしかたぶけるこころのうちをしるしるせかし

題しらず　読人しらず

ゆきてみんこころもとなしかたぶけるこころのうちをしるしるせかし

これさだのみこの家の歌合のうた　藤原興風

ふるさとをこふるこころやまさるらんうつろふ花をみるにつけても

題しらず　読人しらず

ゆきてみんこころもとなしかたぶけるこころのうちをしるしるせかし

春霞たてるやいづこみよしのの吉野の山に雪は降りつつ

ゆきあひてみつるばかりをかたみにてわかれし人のかずにいらなん

春日詣侍りけるに、雨のふりければ、よめる　読人しらず

かすがのはけふはなみだにくもるらんわかれし人のかげをおもへば

古今集春上　凡河内躬恒

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107
ガラス使用

830
107

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

830
30
107

国立国会図書館　　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用

4232

国立国会図書館　タイトル『宇津保物語 30巻』 請求記号 830-107

ガラス使用